



## ホストファミリー紹介

僕のホストファミリーは、プロヴディフ市の中心部から車で2時間半、ソポトという小さな田舎町に住んでいます。6階建てのマンションの最上階が自宅です。ベランダから見える風景はとてものどかでリラックスできます。お母さんが育てているハーブからできる紅茶も絶品です。



ベランダからの眺め



自宅近くの丘から

家族構成は、父・母子2人17歳と13歳の4人家族です。

母・料理が上手で、とても優しい。父・辛いものとゴジラが好き。兄・建築士になることが夢。弟・サッカーが好き。ネイマールのファン。



## 「我が家」の朝ごはん

ブルガリアはパン食。日本ではお祝いのときにケーキを食べますが、ブルガリアでは、パンを焼きます。我が家では、なんと毎朝手作りのパンが登場します！初めて出会った日の翌朝のごはんでは、手作りジャムと手作りパンが出てきました。名前は「パンツァ」。お客さんが来たときなどに振舞う、特別な料理なんだそうです。



ブルガリアといえばヨーグルトというイメージが強いですが、今回の旅でヨーグルトを食べたのは2回だけ。そんなに頻繁に食べるものではないそうです。どちらかというと、チーズがよく出てきました。ヤギや羊の乳で作ったチーズは、濃厚でとてもおいしかったです。

## ホストファミリーの長男が通っている Plovdiv Language School を訪問



僕たちのホストファミリーが通っている「プロヴディフ言語学校」を訪れました。この学校では、ロシア語と英語の勉強をするそうです。日本の学校の教室と似ているところが多かったです。例えばホワイトボード。日本では黒板ですが、基本は同じです。違うところは、机。二人で1つの机になっています。そんな学校でホストファミリーの人たちが、ブルガリアの紹介をしてくれました。ローズオイルや石鹸などの薔薇製品、歴史、文化などをスライドつきで紹介してくれました。その後、ホストファミリーと一緒に「マルテニツァ」という春のお守りを作りました。このお守りは、主に赤と白の2色の糸を使って、誰でも手軽に作ることができます。余談ですが、僕が到着した日、ホストファミリーの子は修学旅行に行っていました。行き先はなんとパリ！うらやましいなあ。

## 民族祭 開催！

今年、欧州文化首都に指定されているプロヴディフ。ちょうど僕たちが訪問した時に、街に残されている古代の円形劇場で、アフリカやヨーロッパ、アジアのいくつかの国が集まり、伝統の踊りを披露する民族祭が開かれました。夜の8時開演という遅い時間でしたが、最後の花火が終わっても、興奮が収まりませんでした。



## 伝統衣装 ヨルダノヴァ・エレナ



民族資料館で、伝統衣装を着ることができるとコーナーがありました。女性用でしたが、ホストファミリーに勧められ、着ることにしました。いざ着てみると、なかなか着心地がいい。風通しもよく、日本のほかまなどより着やすかったです。僕がこの衣装を着ると、周りにいる人たちがおもしろがって、写真を撮りまくってました。